

対人場面におけるタリ文と非タリ文の使用印象の違いに関する調査

－日本語母語話者印象評定を通して－

陳玉(神戸大学大学院生)

1. はじめに

並列助詞とされるタリには、「会議の前に資料を作ったりします」のように単独使用で他の事態を暗示する例示用法以外に、「お時間あったりします？」のように他の事態を暗示しない非例示用法もある。非例示用法は、ヘッジ表現として発話を曖昧にする効果があり、日本語記述文法研究会編(2008)によると文によって意外感や評価などの感情的な意味を表すこともできる。非例示用法の使用実態に関する『名大会話コーパス』調査(陳 2021)と連続テレビドラマのシナリオ調査(陳 2022)では、非例示用法が日本語母語話者に多く使用されていることが示された。しかし、しばしば「若者ことば」「ふざけている」とも言われている非例示用法の使用に対する印象については、まだ十分に明らかになっていない。

そこで、本研究では非例示用法の使用に対する印象を明らかにするために、日本語母語話者を対象に質問紙調査を行う。具体的には、タリ文と非タリ文を比較させて評定を求め、SD法による測定によって印象を数値化して客観的に示すことを目指す。また、年代と性別による印象の違いも明らかにしたい。

2. 調査方法

2.1 質問紙の作成

SD法とは、「良い－悪い」のような反対の意味となる形容詞対を尺度の両端に置き、段階評定尺度を用いて印象やイメージの評定を行う方法である。SD法による質問紙の作成にあたっては、まず『日本語日常会話コーパス』と連続テレビドラマにおけるタリの非例示用法の用例を抽出し、その中から使用頻度が高く、且つフェイスへの侵害度が高いと思われる対人場面を選び、モデル会話文を作成した。また、非例示用法の性質と大和(2008)・Suzuki(2008)などの記述に基づいて形容詞対を選定した。そして、京野(2014)を参考に7段階の評定尺度を採用した。

これを用いて、2023年2月に関西在住の日本語母語話者6名(男性3名、女性3名、平均年齢24.8)に予備調査を実施し、その調査結果に基づいて質問紙を修正した。修正後の質問紙で用いた5つの会話文、11対の形容詞、7段階の評定尺度を以下に示す。

モデル会話文 次のような設定のもと、モデル会話文5つを示した。A(1)は非タリ文、A(2)はタリ文で、回答者を聞き手側(あなた)に指定し、Aさんの発話に対して「あなた」がどのような印象を持つのかを聞く。関係性については、この調査では上下関係のない同僚関係に統一した。ただし、丁寧体で話すという設定であった。

① 依頼の場面

(今回、Aさんは会社の食事会を企画していて、あなたをその食事会に誘います。)

A(1)：来週みんなで食事会をしようと思ってるんですけど、参加できますか？

A(2)：来週みんなで食事会をしようと思ってるんですけど、参加できたりしますか？

② プライベートな質問の場面

(最近あなたは別の同僚の鈴木さんと一緒に仕事をすることが増えて、Aさんがあなたと鈴木さんの関係を気にしているようです。)

A(1)：最近よく社内で鈴木さんと一緒に行動してますよね。鈴木さんのことが気になってますか？

A(2)：最近よく社内で鈴木さんと一緒に行動してますよね。鈴木さんのことが気になってたりしますか？

③ 自己開示の場面

(休憩中、あなたはAさんと最近上映中の映画について雑談をしています。Aさんはその映画に出現している俳優やロケ地、設定まで詳しく語っています。)

あなた：へえ、Aさんは映画に詳しいんですね。

A(1)：実は映画俳優になるのが夢だったんです。今は諦めましたけどね。

A(2)：実は映画俳優になるのが夢だったたりしたんです。今は諦めましたけどね。

④ 謝罪の場面

(あなたとAさん二人で取引先を接待している途中で、急な連絡が入って、Aさんが先に退席したため、後日あなたに謝ります。)

A(1)：この間は、急に帰ってすみませんでした。

A(2)：この間は、急に帰ったりしてすみませんでした。

⑤ 他者評価の場面

(上司が新人の佐藤さんに案件を任せた結果、取引先からクレームを入れられ、上司がその対応をしています。)

あなた：最近佐藤さんの業績も良かったし、私もいける気がしたんですけど…

A(1)：正直、なんで佐藤さんにその仕事をまかせるかなあって思いましたけどね。

A(2)：正直、なんで佐藤さんにその仕事をまかせるかなあって思ったりしましたけどね。

形容詞対 「a 自然な言い方ー不自然な言い方」「b 話しの内容が不明瞭ー話しの内容が明確」「c 慎重な発言ー軽率な発言」「d 厚かましいー気恥ずかしそう」「e 遠回しなー直接的な」「f 積極的な態度ー消極的な態度」「g 真面目なー冗談っぽい」「h 馴れ馴れしいーよそよそしい」「i 責任感がある言い方ー投げやりな言い方」「j 疎遠なー親密な」「k 印象がいいー印象が悪い」

評定尺度 (左側から右側へ) 1：非常に当てはまる 2：かなり当てはまる 3：やや当てはまる 4：どちらでもない 5：やや当てはまる 6：かなり当てはまる 7：非常に当てはまる

2.2 本調査

本調査では東京出身東京在住の日本語母語話者を対象にした。調査会社クロス・マーケティング株式会

社に委託し、2023年3月27日から3月31日までにかけてWeb調査を実施した。調査会社から450人分データをもらい、基準を設けてデータをクリーニングしたあと、若年層（20代）、中年層（40代）、高年層（60代）それぞれ男女50人ずつ、合計300人分の回答を分析対象とした。

3. 調査結果

まず、下位尺度を作成するため、タリ文の11対の形容詞に対して因子分析を行った。最尤法、プロマックス回転で固有値1以上を基準として、3因子を採用した。回転後の11の形容詞項目の因子負荷量はいずれも.400以上である。因子パターンを表1に示す。

表1 タリ文の因子分析の結果

項目	因子負荷量	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
g 真面目な－冗談っぽい		.811	.202	.149	.562
i 責任感がある言い方－投げやりな言い方		.797	.038	.047	.609
c 慎重な発言－軽率な発言		.763	.197	-.177	.553
k 印象がいい－印象が悪い		.720	-.184	-.176	.694
a 自然な言い方－不自然な言い方		.521	-.243	-.051	.437
j 疎遠な－親密な		.215	.622	.065	.310
b 話しの内容が不明瞭－内容が明確		-.171	.514	.074	.359
e 遠回しな－直接的な		.030	.451	-.285	.321
d 厚かましい－気恥ずかしそう		-.083	.199	.681	.481
f 積極的な態度－消極的な態度		.303	-.195	.603	.568
h 馴れ馴れしい－よそよそしい		-.183	-.071	.418	.221
因子間相関			第1因子	第2因子	第3因子
第1因子			1		
第2因子			-.415	1	
第3因子			-.050	-.181	1

第1因子は、5項目で構成され、話し手の好感度と発話態度に関連することが示されたため、「非好感度・軽薄さ」と命名した。第2因子は、3項目で構成され、相手との距離感と内容の明瞭さを測る度合いを示すため、「親密度・明瞭さ」と命名した。第3因子は、3項目で構成され、積極性と遠慮の程度を測るため、「消極性・遠慮」と命名した。

第1因子のクロンバック α 係数は.832で内的整合性が確認できたが、第2因子と第3因子は形容詞項目数が3つで少ないため、それぞれ.514、.565と低い。しかし、小塩（2023）によれば尺度の再検討が必要となるのは.50を切るものであり、上記の数値はこの基準を超えている。さらにI-R相関による検討を行った結果、第2因子 $r = .30 \sim .37$ ($p < .001$) の範囲であり、第3因子 $r = .33 \sim .42$ ($p < .001$) でいずれも.30以上であった。そこで、今回は第2因子と第3因子も参考することにした。

次に、3つの因子に分けて印象に関する有意な差が認められるかどうかを分散分析で測定した。性別（男性・女性）及び年代（20代・40代・60代）を参加者間要因、場面（依頼・プライベートな質問・自己開示・謝罪・他者評価）及び文（タリ文・非タリ文）を参加者内要因とする混合計画の分散分析を行った。

第1因子「非好感度・軽薄さ」については、「依頼」「自己開示」「謝罪」「他者評価」の場面では、年代を問わずタリ文の方が非タリ文より平均値が有意に高かった。つまりタリ文はより好感度が低く、軽薄に感じられていた。「プライベートな質問」の場面では、20代と40代には差が見られなかったが、60代はタリ文が非タリ文より平均値有意に高かった。なお、タリ文においては、「依頼」の場面では20代は40代と60代より平均値が有意に低く、「プライベートな質問」の場面では20代は60代より平均値が有意に低かった。

第2因子「親密度・明瞭さ」については、5つの場面のいずれにおいても、非タリ文はタリ文より平均値が有意に高かった。つまり非タリ文の方はタリ文より発話が明瞭で親密に感じられていた。

第3因子「消極性・遠慮」については、5つの場面のいずれにおいても、タリ文は非タリ文より平均値が有意に高かった。つまりタリ文の方は非タリ文より消極性と遠慮が感じられていた。

以上をまとめると、第1因子の観点から、タリ文は「依頼」「自己開示」「謝罪」「他者評価」の場面では、年代を問わず、非タリ文より好感度が低い。「プライベートな質問」の場面では、高年層だけで非タリ文よりタリ文に対する好感度が低いということがわかった。また、「依頼」の場面では若年層が中年層と高年層よりタリ文を好み、「プライベートな質問」の場面でも若年層が高年層よりタリ文を好む傾向が見られた。第2因子と第3因子の観点から、タリ文は非タリ文より曖昧で距離感を感じさせ、消極的で遠慮がちな態度が示せることが伺えた。

4. 今後の課題

今回は上下関係のない、丁寧体を使う同僚関係に設定したため、いずれの場面においてもタリ文の好感度が非タリ文より低い結果となった。しかし、より親密な関係であれば、結果が変わる可能性がある。この点については今後さらなる調査で検証したい。

謝辞 本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2148 の支援を受けたものです。

5. 参考文献

- 陳玉 (2021). 話し言葉における接続助詞「たり」の使用傾向についての一考察 国際文化学, 34, 26-43.
- 陳玉 (2022). 連続テレビドラマの会話文に見られる助詞「たり」の使用 ことば, 43, 57-74.
- 京野千穂 (2014). 対話における文末の非ノダ文・ノダ文が示す話者の伝達態度—日本語母語話者印象評定の量の調査から— 社会言語科学, 17(1), 114-127
- 日本語記述文法研究会編 (2008). 現代日本語文法 6 第11部 復文 くろしお出版
- 小塩真司 (2023). SPSS と Amos による心理・調査データ解析 [第4版] ——因子分析・共分散構造分析まで 東京図書株式会社
- Suzuki Satoko (2008). Expressivity of Vagueness : Alienation in the Verb-tari suru Construction. *Japanese Language and Literature*, 42(1), 157-169
- 大和啓子 (2008). 「～タリ (スル)」の意外性と配慮効果：依頼文脈における使用を中心に 筑波応用言語学研究, 15, 115-125